



おしえの花束

雲晴

— 極楽へ帰り行くべし —

「雲 晴」第六号

平成二十五年三月一日発行

貞 林 院 瑞 正 寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一五
電話 (03) 3627-3411
FAX (03) 5699-5915

— 自分はずっと極楽浄土にいたのだから

きつとその故郷の極楽浄土に帰って行くだろうよ。

— というものでした。

つまり、法然上人によると、わたしたちはみんなお浄土からこの娑婆世界に来ている人間です。この娑婆世界にあって、わたしたちは凡夫と呼ばれる存在ですが、わたしたちの本籍地はお浄土、すなわち仏国土なのです。

— ということは、わたしたちはみんな、ほとけの子（仏子）なのです。

その仏子が娑婆世界にさまざまな姿となつてやって来て、しばらくのあいだ娑婆という舞台で演劇をして、自分の登場場面が終ると再びお浄土に帰って行く。

法然上人は、そのように、考えられたのでした。

— ですから、浄土はわたしたちの故郷なのです。

浄土宗の元祖・法然上人は、建暦二年（一

一一二）正月二十五日に入寂（しよじやく）されました。

その入寂の少し前、正月三日に、弟子が病

床の法然上人に尋ねました。

「極楽往生は確實でございませうか？」

法然上人の教えは、念仏者はみんな、死後に阿彌陀仏の極楽世界（お浄土）に往生できる、というものでした。

弟子はそのことを尋ねたのです。この質問に対する法然上人の答えは、

「我もと居せし所なれば、

— さだめて極楽へ帰り行くべし —

昨年の大晦日のNHK紅白歌合戦
ごらんになりましたか。ひと頃より
視聴率も落ちましたがまだ多くの人が
見ている事も支持される理由ではないで
しょうか。この歌NHKではノーマン
この十数年見た事ありません。と
云うのも今の歌が
わからないという
わからないからで
す。

「ヨイトマケの唄」 西門寺住職 島崎

ある新聞のコラムに美輪明宏さん
が紅白で歌った「ヨイトマケの唄」
の事が書かれておりました。今、若
者の間でこの歌が流行っているそう
です。

NHKもやるね！
今から五十年前頃、建築の基礎を造
る現場で働いていた女性労働者の家族
の事を唄った歌です。六分間もあるの
です。

今も聞こえるヨイトマケの唄

今も聞こえるあの子守唄

工事現場のひるやすみ

たばこをふかして目を閉じりや

聞こえてくるよあの唄が

働く土方のあの唄が

貧しい土方のあの唄が

子供の頃に小学校で

いじめぬかれてはやされて

くやし涙にくれながら

泣いて帰った道すがら

母ちゃんの懐くとこを見た

忘れてはならない母親の愛の唄です

いたもんだ、おうみんなて担いで舞台
の上のせてやるうぜ。」

「どうなさいました。」

「いえ、この人が千両富にあたって
腰が抜けましたんでみんなて担ぎ込
んだんですよ。」

「それはご親切にありがとうございます

す。」

「千両千両。」

「落ち着いてください。誰か水をいっ
ぱい持ってきておくれ。サア水を飲ん
で少しは落ち着きましたかな。」

「千両当たった当たった。」

「はいはいそれではあなたのお持ちの
札をこちらに、フンフン確かに当たっ

唄の泉

落語の世界を訪ねて



いよいよ富くじの始まりです。江戸
の三富といつて、谷中の感応寺、目黒
のお不動様、湯島の天神様が特に有名
です。本殿の前には舞台がしつらえて
あり舞台の真ん中には大きな木の箱が
ありその中に札が入っているわけで、
子どもが目隠しをしてこの札を誰のオ
バケのようなもので突き、甲高い声で
読み上げます。ざわざわしていた会場

も口富、中富と進んでいよいよ突き納
め「大富千両」のこえがかかると場内
は水を打ったようにしんとした。
「鶴の千五百四十八番・鶴の千五百四
十八番」
「アたたたたたたたたたた。」
「何だいこの人はたたたたたたと言
ながら座り込んでよ、なんだって千
両富に当たったって、運のいいやつも

家庭の中にお念仏を

最近の子供達に起きる問題の根底には
必ず大人の問題があるはずだ。

福沢諭吉は「教育論」の中で、「一家
は習慣の学校なり。父母は習慣の教師
なり」と述べています。子供がその人
生で初めて経験するのは父母との生活
であり、子供は四六時中親を見て過ご
し、その一挙手一投足をまねることで、
次第に大きくなり、よくも悪くも立ち
居振る舞いから言葉使いまで、親の日
常のありかたをそのままに映す鏡と言
えます。イギリスの哲学者、H・スペ
ンサーも「子供は父母の行為を映す鏡
である」と言っており、親は子供のよ
き手本でなければならぬのです。

自殺、校内・家庭内暴力、いじめの
問題、そして殺人と次から次へと姿を
変え現れているこれらの子供の問題は、
現代社会の混迷が鏡に写し出された姿
であり、子供が大人社会へ警鐘を打ち
鳴らしていると受け取るべきです。

合掌は、人間として一番美しく、自
然な姿であり、「平和のシンボル」とも
いわれます。合掌のままではケンカも

一口法話



鎌倉時代以前の諸宗派

一天台宗③

天台宗の名僧(続き)

前回は天台宗の開創者である最澄をご紹介しました。今回は淨土宗との関わりのお二人をご紹介します。

慈覚大師円仁(七九四〜八六四)

第三世天台座主。十五歳で最澄に師事し、八三八年承和五年中国に渡り、五台山・長安等で勉強し、多くの典籍・教法を持ちかえりました。

帰朝後は天台密教の大成につとめ、関東東北を巡錫して多くの霊場を開きました。また、引声念仏を導入したことは、天台淨土教の発祥となりました。

惠信僧都源信(九四七〜一〇一七)

良源に師事し、秀才の誉れ高かったが、名利を嫌って横川の惠心院に住んで淨業を修し、『往生要集』を著わして日本の淨



土教の基礎を築きました。仏像、仏面の制作が多数にのびます。

天台宗の寺院

総本山は比叡山延暦寺(滋賀県大津市)です。他にも滋賀院(滋賀県大津市)・妙法院(京都市東山区)・三千院(京都市左京区)・青蓮院(京都市東山区)・曼珠院(京都市左京区)・毘沙門堂(京都市山科区)・寛永寺(東京都台東区)・輪王寺(栃木県日光市)・中尊寺(岩手県西磐井郡)などがあります。ほかに天台宗から分派した、聖観音宗の浅草寺(東京都台東区)・和宗の四天王寺(大阪市)・鞍馬弘教の鞍馬寺(京都市左京区)などもあります。以上三回にわたって天台宗をご紹介しました。

ております。おめでとうございます。あなたは氣丈です。ね、腰をぬかしただけで、なかには当たったと分かったとたん息を引き取ってしまったかたもいらつしやるんですよ。」

千両から何だかんだ手数料を引かれそれでも八〇〇両ふところにかえつてきました。

このお金を見て女将さんはビックリ仰天。

「だから私は富をお買いといつたろう。」

「なにいつてやんでい。ところで今度の正月はお欄のお供さんでなく、おいらがあつたツツバラかつた着物を着て年始回りがしたいんだがどうかね。」

「ああ吉方参りよ。」

「カミシモかいいいじやないか、おやりおやり、いまからじやつくるのはまにあわないから、市ヶ谷に「甘酒屋」という古着屋があるからそこに行くかどうかでも揃うよ。」

元日、待ちきれないで外に飛び出した八五郎、大家さんに短くて重々しい正月の挨拶を教わった。

それは「御慶(ギョケイ)」。お上がりなさいといわれたら「永日(エイジツ)」。これを覚えてあつちこつちで御慶「御慶」「永日」「御慶」

仲良しのくまさんが繭玉担いでやってきた「御慶」



できません。争いのない姿なのです。今こそ、宗教の心を、合掌の姿を家庭において、親が生活の中に習慣として取り入れ、後ろ姿で示しながら子供へのしつけの基本としてほしいのです。

お彼岸はお寺へお参りし、み仏様に近づき、お墓にお参りし、ご先祖様に両手をあわせお念仏を称えましょう。明るく・正しく・仲よく過ごせるようにと、合掌しお念仏する拝む姿の美しさを家庭の中に習慣として親が子に示していただきたいと思ひます。

(総本山知恩院布教師会ホームページより)

春彼岸会法要のお知らせ

三月二十日(水) 正午

彼岸の中日に本堂にてご先祖供養の法要をいたします。塔婆をご希望の方は事前に電話・ファックス・メール等でお申し込み下さい。

塔 婆 三千元
回 向 料 志 納



仏教情報センター設立

三十周年記念大会を開催

仏教情報センターは各宗派の僧侶が集まり、ボランティアで仏事や悩み事などの電話相談を行っている団体です。住職も十年前より相談員として活動しています。今年に設立三十周年を記念して左記のとおり記念大会を開催しますので、檀信徒の皆様もどうぞご参加下さい。記念講演として芥川賞作家の玄侑宗久をはじめ浄土真宗尼僧で歌手の三浦明利によるライブなどがあります。チケット(二千元)ご希望の方は寺で扱っておりますので、彼岸のお参りの際にでも是非お求め下さい。

日 時 五月六日(月) 午後一時半
場 所 浄土宗大本山 増上寺大殿

平成二十五年団参について

本年の団参は左記のとおり決定致しました。後日あらためてご案内いたしますので、どうぞご参加下さい。

十一月十八日(月)～二十日(水)

大本山善導寺(福岡県久留米)

*浄土宗一口メモを参照

当山でお祀りしております「松浦河内守信正」は江戸時代の平戸藩主の分家にあたり、晩年を地元小合村で過ごした方です。長崎奉行まで出世した方であり、そのような縁から平戸には「松浦資料博物館」もありますので、長崎観光も含めこの機会に是非見学したいと思えます。

戦後初めて! 「善光寺出開帳」

この寺報は七ヶ寺が協力して発行しております。お仲間の一人であります兩國回向院では、本年の四月二十七日から五月十九日までの期間「善光寺出開帳」が行われます。

出開帳とは普段お参りできない寺院のご本尊が地方に出張して、一定期間拝むことができるようにするものです。江戸時代にはこの回向院での開帳は大変な人気で空前の賑わいだったとのことです。

この度の開帳では、阿弥陀如来像をはじめ善光寺でも公開されないご本尊

のお姿を拝むことができず、是非この機会にお出かけください。

なお寺にポスター及びチラシがございますのでお参りの際にでもご覧下さい。

◇浄土宗一口メモ◇

「浄土宗の本山について④」

「善導寺」

福岡県久留米市にあります「善導寺」は九州の浄土宗教化の拠点でもあり、念仏の根本道場でもあります。

この寺の開山は聖光上人ですが、呼び名としては他に「鎮西上人」や「弁長上人」などがあります。法然上人の直弟子として浄土宗の第二祖とされています。

善導寺では先の法然上人八百年御遠忌に伴い境内整備、講堂の改修整備等を数年前から行っており、本年四月の御忌大会に合わせて全て完了致しました。特に国指定重要文化財でもある大庫裏は、一旦全て解体され、十年の工期を経て二百五十年前の当初の姿に復原されています。

「善導寺の御詠歌」

古水の 流れ大きく 千歳川

ひろめたまいし 鎮西国師

(貞林院瑞正寺)